



# 学校法人 クラーク学園 和泉短期大学

# izumi NEWS

**Vol.7**  
(2010年12月)



和泉クラーク・ホール前

## 2010年度聖句

人にしてもらいたいと思うことは  
何でもあなたがたも人にしなさい。

(マタイによる福音書7章12節)



いずみちゃん



クラークくん

(クラーク学園和泉短期大学のマスコットキャラクター)

izumi ニュース Vol.7

和泉短期大学 広報渉外ユニット

発行責任者 理事長 深町 正信

〒252-5222 神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1

TEL.042-754-1133 (代表)

URL:<http://www.izumi-c.ac.jp>

## クリスマスメッセージ

「私達に与えられたしるし」 学長 伊藤忠彦…2

## 特集 第44回いずみ祭…4

### izumi TOPIC

- 平成22年度文部科学省  
「大学生の就業力育成支援事業」選定を受けて…3
- 文部科学大臣表彰「短期大学教育功労者」を受章…3
- 国際ナショナル・ソーシャルワーク…5
- 2010年度教育懇談会開催…5
- 高等学校の先生方との教育懇談会開催…5
- おもちゃインストラクター養成講座開催…5
- 児童虐待防止推進活動・オレンジリボン運動…5
- クラーク学園の歴史資料を展示…6
- 学校法人の格付け「BBB/安定的」を維持…6

# 〈クリスマスメッセージ〉

## 私達に与えられたしるし

ールカによる福音書 2章1～12ー

学長 伊藤忠彦



「羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。」(8)これは、クリスマスの晩の様子を描いた部分です。夜は肉体の疲れを癒す時ですが、同時に一人ぼっちにさせられる時、無防備で孤独な時です。誰もが人生に昼だけでなく、こんな時があるのだと心の底から感じさせられる時です。

「すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照した」(9)あの闇がおおう野辺に、そこは人生の深い現実をも指し示しているのですが、その所に天使が輝く光と共にやって来たというのです。この出来事、これがクリスマスです。暗闇が打ち破られて、光が孤独と不安の中にある羊飼達を包んだというのです。

「これが、あなたがたに与えられるしるしである。」(12)人間の現実の暗闇を打ち破る光、これがクリスマスに全人類に与えられたしるしだと言うのです。しかし、現代人はこの光を、暗闇を打ち破るしるしと見ていないでしょうか。現代の私達は「啓蒙主義」によって強く影響されていると言えます。つまり、理性こそが現実の闇を打ち破る力だというのです。英語で啓蒙はEnlightenと言い、「光を与える」という意味です。啓蒙の「啓」は「ひらく」「蒙」は「おおわれて暗闇の中にある」ということです。

私達が近代の歴史を見る時に、「理性」が闇を開く光だとはとても考えられません。理性の力を信じる時代に二つの大きな戦争が起こり、今日でも戦いが止むことはありません。合理主義に影響された理性は、役に立つ人間を価値ある者とし、そうでない者を無価値とする傾向さえあります。これらの理性は「弱さ」を「無能」と見做することさえあります。したがって理性は私達の暗い現実を照らす光であることが出来ないのです。

「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに与える。」クリスマスとしるし、クリスマスの光は恐れを取り除き、すべての民に与えられる喜びをもたらすものです。このしるしは、「飼葉おけの中に寝かしてある」(12)幼な子です。馬小屋にお生れになった御子イエスキリストです。このキリストは又神の愛のしるしです。「神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をお使いになった。ここに愛がある。」(ヨハネ4・10)と語られている様입니다。



クリスマスツリー点火祭：学生聖歌隊



クラークホールにて：ハンドベル演奏風景



相模大野ステーションスクエアにて：演奏風景

## インフォメーション

### ■クリスマスコンサート開催のお知らせ

日 時：12月11日(土)10:30～12:30(開場10:00)  
場 所：和泉短期大学4号館(体育館) 〈駐車場完備〉  
参加費：無料

地域に根ざした子育て支援の場、子育てサロン「はっぴい」では、上記日時にて、クリスマスコンサートを開催いたします。ハンドベルの演奏や聖歌隊によるクリスマスソングのほか、クリスマス物語の実演、手遊びなど、家族揃って楽しめる内容となっておりますので、ぜひお越しください。



## 文部科学省 「大学生の就業力育成支援事業」 に選定

文部科学省では、平成22年度から、各大学・短期大学において、入学から卒業までの間を通じた全学的かつ体系的な指導を行い、学生の社会的・職業的自立が図られるよう、大学の教育改革の取組を支援する「大学生の就業力育成支援事業」を実施しています。

全国の大学・短期大学の中から180件、うち短期大学は19件が選定され、神奈川県内の短期大学では、唯一本学のみが選定されました。

### ●平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」選定を受けて

キャリアデザイン委員会  
委員長 平田 美智子

大学新卒者の就職率が平均60%台と厳しい雇用情勢の中、和泉短期大学は就職率96%を誇っており、「就職力」に関しては他大学に比べると問題が少ないので、最初はこの選定を受けられると期待していませんでした。しかし、この事業は「就職力」ではなく「就業力」を向上するもので、就職後職場に定着して勤務し、周囲の子ども・保護者・保育者などに頼られる高い実践力をもつ保育者を育成する必要があると感じ、文部科学省に応募しました。全国から応募した大学・短大442件から180件が選ばれましたが、短大は全部で19件と少なく、和泉短期大学はその中に選ばれました(神奈川県内の短期大学では唯一でした)。補助事業の期間は今年度(平成22年度)から5年間ですが、取組の成果を毎年問われます。

今回選定された和泉短期大学の事業は「保育就業力向上推進プログラム『育てられるもの』から『育てる者』へ」という取組で、単なる就職試験の準備に留まらず、学生自身が自ら考え、行動することのできる保育者になることがねらいです。この取組は学生の入学前から始まり、本学合格者は自己の基礎学力や基礎的生活習慣などの領域で数多くの項目を自己診断し、大学から提供される「キャリアカルテファイル」に記録していきます。また、入学前教育でもある「キャリアデザインA」という講義を受講し、基礎的な文章力・読解力・コミュニケーション力などを身につけます。入学後は、授業、ボランティア活動、学外実習、保育実践(「教職実践演習」)、「キャリアデザインB」、インターンシップなどを通し、保育者としての実践力がついたかを、自己診断と教員(グループアドバイザー)とで評価し、「キャリアカルテファイル」に記録していくのです。この「キャリアカルテファイル」の記入やパソコン入力には、

専門の支援者がつき、学生に1対1で丁寧に対応します。最終的な保育就業力の評価は、就職1年後、自己診断と就職先の評価を総合して行いますが、その時にはこの取組により優れた保育者が大勢増えることを期待します。

取組の第2の柱は、和泉短期大学のこれまでの英知と経験を学生や地域の保育者、子育て支援者、ボランティアなどに提供する「和泉子ども・家庭大学」の構想です。本学ではすでに卒業生や地域の保育者へ保育・福祉の「リカレント講座」を開催し、地域の子育て親子が集う子育てサロン「はっぴい」を毎月実施しています。今後は、「子育てひろば」を常設し、地域の保育者を研修してゆく専門的な機関に発展させたいと思います。

こうした取組を行うには、本学の教職員の力のみでなく、地域の方たちの理解と支援が欠かせません。学生の学外実習・ボランティア活動・インターンシップを受け入れてくださる保育園・幼稚園・施設、そして近隣の住民、相模原市役所、ボランティアグループなどのご協力を得て、取組を進めてゆきたいと思います。例えば11月の児童虐待防止推進月間では相模原市に協力し、学生がオレンジリボンを作り、街頭で市民に配りました。今後は、地域から学生・教職員が学び、地域に就業力の高い保育者を輩出することを目指し、努力してゆきたいと思います。

文部科学省GP作業部会委員:

キャリアデザイン委員会委員長 平田美智子(准教授)

委員:井狩芳子(教授)、松浦浩樹(准教授)、大下聖治(専任講師)、曾根真理子(庶務ユニット兼広報渉外ユニットサブリーダー)、木村文紀(経理・施設ユニット)

## 表彰

### ●文部科学大臣表彰—短期大学教育功労者—を受章

本学園の教職員2名が、文部科学大臣表彰—短期大学教育功労者—を受章しました。これは、短期大学教育に長く従事し、その功労が顕著な者および短期大学教育に特に功績があった者を、文部科学大臣が表彰するものです。この度、10月22日に行われた日本私立短期大学協会創立60周年記念式典の中で、この表彰式が行われました。

本学園で今回表彰されたのは、伊藤忠彦学長と土橋正文事務局次長です。お二人は、ともに永年本学園の教育と運営に従事し、今日のクラーク学園の発展に大変貢献されました。受章を心からお慶び申し上げます。和泉に働く教職員の全員にとっても大変名誉なことです。なお職員では、佐藤公啓事務局長に続き、二人目の受章となりました。



伊藤 忠彦 学長



土橋 正文 事務局次長

### ●全国保育士養成協議会 平成21年度教職者表彰者 原田 康子 教授

# 「いずみ祭」を終えて

第44回いずみ祭“THIS IS IZUMI”が、10月23日(土)・24日(日)に行われました。2日目の午後に少し雨がパラりましたが天気には恵まれ、良いいずみ祭が行えました。夏休みから準備していた成果が出せたのではないかと感じました。

1年生は初めてのいずみ祭で驚きや感動があったと思います。2年生は、ほとんどの学生が最後のいずみ祭でグループで協力をして、改めて絆を深めることができたのではないかと思います。

いずみ祭実行委員長 2年 川瀬 沙樹

## 劇団夢づくり 「造形遊び」、劇段ボール紙夢づくり



10月23日のいずみ祭で「造形遊び」第15期生の初公演を行いました。2つの班に分かれてたくさん話し合いをし、劇の練習をしてきました。本番では、たくさんの方に来ていただくことができ一人一人喜びを感じました。

2年生にとっては今までの集大成として、12月11日(土)にファイナル公演があります。更にパワーアップした内容となっていますので、是非見に来て下さい。

## 父母会 「すごかったあ～！感動しました！」 父母会役員一同

今年の父母会主催・後援会後援のコンサートは、牧師兼ミュージシャンの陣内大蔵(じんのうちたいぞう)さんをお招きしました。歌声は心に染み、お話には笑いあり涙ありと、沢山の観客は完全に陣内ワールドに引き込まれました。音楽伝道の素晴らしさを肌で感じる事ができました。ご来場の方々は「すごく良かった～!」「感動した!」「また来て欲しい」とお帰りになり、大変嬉しく思いました。全てに感謝いたします。



右側が陣内氏



前列中央が陣内氏



後援会模擬店の様子

## サウンドコンテスト優勝 笑顔溢れるJグループ

タイトル: ぼくの大好きな和泉短大

歌詞: ♪～僕の大好きな和泉短大

笑顔が溢れるJグループ

とっても大事な仲間達

離れていてもみんなの笑顔を思い出すよ

大好き 大好き 子どもからも

大人からも愛されたいな

最高の保育士になるんだよゼツタイ!～♪



課題曲: 「クラリネットをこわしちゃった」の歌詞を和泉のイメージに編曲して歌いました。

去年は体操着で優勝したね。今年は全身タイツで優勝したね。Jグループと言えば、ギャップです。笑わせた後にしんみりさせることが優勝の秘訣です。純先生、Jグループ、和泉が大好きです。私たちのふるさと和泉です。

## ① インターナショナル・ソーシャルワーク

「インターナショナル・ソーシャルワーク」の授業では、毎年夏休みを活用して、韓国にある児童養護施設、学童クラブ、保育園、社会福祉施設で 見学実習を行います。施設に入所している子どもや施設に通ってくる地域の子どもたちと交流し、一緒に工作をしたり、手遊びを披露したりします。



韓国の児童福祉施設・保育所の先生方と一緒に

「インターナショナル・ソーシャルワーク」(韓国研修)での経験

### 『となりの国では…』 2年 本橋菜央

韓国と日本の福祉を比べると異なる点が多く、文化の違い・考えの違いによる差だと感じました。

児童養護施設は子どもの心理的ケアに重点を置いて、子どもを養育しているそうです。日本に比べ里親制度が充実しているため、専門的ケアが必要な子どもが入所する為だと学びました。

保育園はお国柄か、保育室がとても綺麗に整頓されていました。いろいろな遊びを楽しむ事ができるようにコーナー保育を取り入れ、子どもに遊びの経験を増やしていく保育をしていました。教育中心から遊び中心の保育に転換しつつあるということが印象的でした。

社会福祉会館では、戦時中日本語の教育を受けた方々に会うことができました。会う前は複雑な気持ちでしたが、温かく迎えて下さいました。嬉しい気持ちと共に、あまりにも上手な日本語で、日本が行った政策の恐ろしさを痛感しました。社会問題の一つである「子どもの慢性的虐待」についての人形劇を高齢者の方々が演じるサークルがあります。子どもにも分かりやすく構成されていました。また、韓国の福祉政策も学びました。

他国の福祉を知ることで、日本の福祉を見つめ直す機会になりました。自分の視野も広がり、本当に参加して良かったと思います。

## ② 2010 年度教育懇談会が開催されました



2010年9月8日(水)、相模原市内高校14校の校長先生、副校長先生などにご参加頂き、第2回「教育懇談会」が開催されました。

初めに本学の松浦浩樹准教授・教務委員より「生きる力」のコンセンサスを求めて(幼児のままごとの変遷から生活力と就業力を考える)という内容で話題提供がされ、その後、意見交換・情報交換がすすめられました。

今回の懇談会で各高校側からいただきましたご意見などを参考として、本学では今後も、地域に根ざした短期大学として、市内高等学校との連携強化に力を注いでいく所存です。

## ③ 相模原市内の高等学校の先生方との教育懇談会が開催されました

2010年9月15日(水)相模原市内高校6校の、保育・福祉関係科目をご担当の先生方をお迎えし、第2回「保育・福祉関係科目担当教員 教育懇談会」が開催されました。

初めに、本学の鈴木准教授・入試広報部長と齋藤専任講師・入試広報委員より右のとおり話題提供がされ、これに基づき先生方との熱心な懇談が行われました。

今後も担当の先生方の要望に応えられるように努力していく所存です。

### ○鈴木准教授・入試広報部長

「最近の保育・福祉施策の動向について」

### ○齋藤専任講師・入試広報委員

「遊びや活動場面での保育者の配慮

:子どもに <~させる> 活動をしないために」



## ④ おもちゃインストラクター養成講座が開催されました

子どもとおもちゃの関係を学び、身近なものを使用して、おもちゃ作りの知識と技術を学ぶ「おもちゃインストラクター養成講座」が、2010年8月2日(月)～3日(火)に開催されました。講座の受講者69名には、日本グッド・トイ 委員会から『おもちゃインストラクター認定証』が授与されました。

自分自身で簡単に作ることができ、思いのほか楽しく遊べるシンプル手作りおもちゃの魅力を十分に感じられた2日間でした。



## ⑤ 児童虐待防止推進活動・オレンジリボン運動に学生が参加しています



オレンジ色にライトアップしたウェルネスさがみほらの前で

11月は、「児童虐待防止推進月間」です。本学が所在する神奈川県相模原市では、「産」「官」「学」の連携により、子どもの虐待を防止する活動を展開しています。

私は、2年生になってからオレンジリボンを作成したり、点灯式に参加したり児童虐待防止のキャンペーンに関わってきました。

相模原市の活動で1日には点灯式、これからは駅前でもオレンジリボンを配布していきます。この11月にいろんな人たちが児童虐待防止について知り、また虐待が減ってくれることを願っています。

ボランティアサークル 2年 渡辺茉莉



橋本駅前でのリボン配布

相模原市のオレンジリボンの点灯式に参加しました。当日は、市役所の方のオレンジリボンについての考えなどを聴くことができました。

中でも「オレンジリボンの点灯式はおめでとーと言いたくない。」という言葉が印象に残っています。虐待がなければこんな必要がなかったはずなので、おめでとーと言いたくないとおっしゃっていました。

確かに虐待がなければオレンジリボンも必要ないのかと思いますが、現実には虐待が起きている以上虐待防止の啓発を促すためには今は必要なものだと思います。

ボランティアサークル 2年 丸山友美

## ⑥ 本学園の歴史資料を展示しています

学校法人クラーク学園は1956年4月、福祉従事者の現任訓練機関「バット博士記念養成所」が東京都世田谷区に開設されて以来、54年の歴史を刻んでまいりました。

現任訓練の成果は、1960年「玉川保育専門学院」の開設、さらに1965年「和泉短期大学」開学（1976年相模原市へ移転）へと発展しました。本学の歩みは、まさに戦後の保育者養成機関の歴史でもあります。

このたび、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」について、多くの方々にご理解を賜りたいとの願いを込め、1号館（本館）のエントランスホールに、創設に深くかかわった基督教児童福祉会（CCF=Christian Children's Fund）の主要な方々とその関係資料を展示しました。なお和泉クラーク・ホール2階にも本学園の歴史の展示をしております。併せてご覧下さい。



## 学校法人クラーク学園 格付け「BBB / 安定的」を維持

本学園は短期大学法人で唯一の格付けを維持しました。

学校法人クラーク学園は、JCR（日本格付研究所）より、2010年度で3回目となる評価を受け、長期優先債務格付「BBB（トリプルBフラット）」今後の格付けの見通し「安定的」が維持されました。短期大学法人として学校法人の格付けを公表しているのは本学園だけです。

今回の格付け「維持」の評価のポイントとしては、下記の通りです。

1. 人口増加が続く相模原市や町田市は、児童保育に対するニーズが強く、本学への求人状況は極めて良好な状況が続いている。
2. 地元との密着度を高めつつ、実践系短期大学としての特色を前面に出したリレーションシップを高めることに努めており、入学生員を継続的に充足させている。
3. 経常的な運営に支障はなく、将来の施設・設備の更新に備えた引当特定資産の繰入れも安定的に進められている。中期的に施設・設備の経年化対応投資が必要な時期を迎えるが、財務基盤は安定している。また、価格変動リスクの少ない資産運用方針の下、運用資産の健全性も認められる。

JCRより格付けを取得したことにより、本学園に対する公平・公正で客観的な第三者評価が得られたものと考えます。クラーク学園は、今年度創立54周年を迎えましたが、教育、研究、社会貢献を行い、キリスト教精神に基づいた、充実した教育と健全な運営に取り組み学園のミッションを果してまいります。

## 訃報 阪田勝三・第5代理事長・第5代学長ご逝去

本学園第5代理事長・第5代学長の阪田勝三氏（95歳）が2010年9月19日（日）に逝去されました。告別式は2010年9月24日（金）にベルコシティホール仙台にて執り行われました。本学園を代表し深町正信理事長が参列し阪田元理事長の本学園でのお働きに感謝し弔辞を述べられました。阪田元理事長・元学長の在任中に取り組みされた功績は数多くありますが主なものを紹介いたします。

1. 学園の業務の明確化（規程の整備）
2. 財政基盤の確立
3. チャペル兼講堂建設（和泉クラーク・ホール）
4. 和泉短期大学の正門・フェンス・学内舗装・植栽の一新
5. 中庭の整備（学生の憩いの場所として四季折々の草花又樹木植栽・本学園の建学の精神である「愛の泉」の設置）
6. 憩いの広場整備（学生が自由に利用できるようなラソル付きの白いテーブルと椅子が置かれ四季折々の花が楽しめるフラワーボット設置）



### 略歴

・東北帝国大学法文学部英文学専攻卒業・文学博士・海軍学校教授・宮城学院女子大学教授、同大学、短期大学学長・日本大学文理学部教授、同大学 文理学部次長・クラーク学園理事長（1986年6月から1996年3月まで）・和泉短期大学学長（1995年4月から1996年3月まで）  
・著書「キーツ論考 - 自己解体としての想像力 -」「ことばの森から - 美しく生きる48の断章」「心に揺れる花を - 若い人たちに贈る言葉 -」  
訳書 フォークナー「死の床に横たわり」「尼僧への鎮魂歌」 論文「グリーン」の思考と手法、その他

### 「理想と情熱 - 十年を振り返って -」

昨今は、福祉とりわけ老人福祉が大きな社会問題となっていますが、十年前私がクラーク学園に赴任した頃は、老人福祉の学校はクラーク学園以外には全国でも二・三校しかありませんでした。老人福祉の先駆者としてのクラーク学園に、私は理想の美しさを見ました。

しかもその老人福祉専門学校は、和泉短期大学の児童福祉科三十年の実績の上に築かれたものでした。

児童福祉単科という短期大学は、全国でも「和泉」だけですが、その児童福祉科というたぐ一つの科をひたすら守り通した情熱の烈しさに、私は敬服しました。

友人にクラーク学園のことを話した時に、そばで聞いていた奥様が「素晴らしい学校ですね」と褒めて下さいました。クラーク学園の子どもと老人に対する理想と情熱が、いま和泉短期大学と和泉福祉専門学校に美しく花開いていることを、私は誇りに思います。

和泉の原点は愛であることは、言うまでもありません。しかし今や、愛はあまりに安易に使われ、歪み、やつれ、うす汚れて、ほとんど空虚な言葉となってしまいました。イエス・キリストやパウロの説く真実の

愛が、クラーク学園に学ぶ学生・生徒に生きていなければ、愛もまた抛り所を失い、形骸化するでしょう。

花村学長と私はそのことを痛感して、チャペル建築のために奔走した日々を、私は懐かしく思い出します。その熱い思いが理事会を動かし、理事会の確固とした働きによって、美しいチャペル（クラーク・ホール）は、毎週の礼拝の他に、それまでは市民会館を借りて行われていた入学式や卒業式も、学内で行えるという大きな喜びをもたらしました。

実はチャペルの構想ははじめからあったのではなく、はじめはもっとささやかな願い、花村学長の発想ですが、荒れ果てた中庭を整備して、そこにクラーク学園のシンボルである「泉」、こんこんと湧き出て尽きることのない「愛の泉」が作れないものか、と二人で話し合っているうちに、チャペル建築の構想が浮かび上がってきたのです。

美しいチャペルと「泉」のある中庭は、私にとっていつも、なつかしいクラーク学園の思い出の中心にあって、私を慰めてくれるでしょう。

（1996年6月7日）

「心に揺れる花を - 若い人たちに贈る言葉 -」より

※和泉福祉専門学校は2010年4月より改組され、現在和泉短期大学専攻科介護福祉専攻となりました。

学園関係者一同、ご家族の上に慰めと平安がありますようお祈りし、衷心より深く感謝申し上げます。